

文化・芸術

「ヒロシマアピールズ」

1983

(1983年)

亀倉雄策 (1915~97年)

「ピースポスターには、ひとひらの诗情とひとすじのドラマがなければなりません。この二つの要素がないと表現に深みがなく、浅薄で平板なものになってしまいます。平板では人々の心の扉をたたくことはできません。人々の心に深く食い入ること、良心の魂を呼び出すことができます。それには、デザイナーがやむにやまれぬ平和への熱情をもちやすことで、本当に人々の心を動かすピースポスターが作れると、私は信じています」。これは本作制作にあたっての亀倉の言葉です。

この作品は、東京オリンピックの仕事と並ぶ、亀倉の代表作ともなりました。ヒロシマアピールズのポスターは、言葉を超えてヒロシマを伝えていくために、日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)と広島平和創造基金、広島国際文化財団によって、1983年から毎年1点ずつ制作され現在にいたります。亀倉の本作は、その第1号です。

燃えながら消滅していくチョウの情景は、新しい視点からの平和ポスターとして人々に鮮烈な印象を与えました。(小此木)

大川美術館企画展から

《名画の扉》

HIROSHIMA APPEALS
1983

